

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



国立大学法人
 東京大学
 生熊水文学研究所
 水生生物観察会
 今年で四回目の観察会ですが、環境大学三年目で教員が中学生になり、中学生も小学生のサポートもして参加しています。夏休みの最後の観察会を、のしみにして、生徒もおります。

平成三十三年八月二十七日
 こども環境大学
 第四期
 第五期
 第四講座
 参加者三十三名

この生熊水文学研究所は近隣にはめずらしい水生生物が観察されます。貴重な場所でもあり子供達にとってもすばらしい。水棲昆虫の天国など、夢の国です。どんな虫かどうなのか、カゲロウ目、カメムシ目、トンボ目、トビタテ目、ハエ目、主存食物、バクテリアや藻類、生きとし動物、落葉枝、微生物、全員で撮影、今度も一日のしめです。



浅瀬で、石を割かして、サワガニ、ヨウホリを探る。子供達にとっても、こんな遊場は、水棲昆虫と森林がある、知る機会、と、いって、言わねば、でも、簡単に、は、入れて、もらえないのです。こども環境大学生熊水文学研究所です。夏になると、東京から、大勢の、大勢の、研習に来る、一般の人達、は、あま、入林、お米、ま、松澤の子供達は、本音に、喜び、です。り、さ、い、時の、思い、は、一杯、つ、ま、る、こ、が、感、性、を、育、む、の、で、す。



お母さんも夢中、親子で楽しく観察は、子供、の、心、を、し、かり、握、る、手、後、も、ある。



お母さん、お父さん、子供、は、か、え、て、も、う、度、水、遊、び、は、ど、く、を、ま、か、冷、た、い、水、に、涼、し、り、や、は、り、有、然、の、優、し、さ、を、味、わ、り、ます。



大人も子供もトビタテの仲間や、ヤゴなど、最近見ることが多くなっています。